

施設類型	2. 道 路	道路一般 1
------	--------	--------

(サブテーマ) 自然を生かす	(展開項目) ○自然を守り、生かす
-------------------	----------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔自然との調和〕	1. 路線選定や道路線形、縦横断面計画では、できるだけ自然の地形や水際線との調和に配慮する。	P <sup>27</sup> デザイン4(2)
〔構造形式の工夫〕	2. 必要に応じて、自然改変を小さくするような構造形式を検討する。 〔構造形式例〕・高架橋梁構造、トンネル構造、など。	
〔生態系への配慮〕	3. 周辺の生態系に配慮した道路構造物や工法の導入を検討する。 〔構造・工法例〕・動物横断路 ・V字、皿型側溝 ・道路沿いの林縁部保護植栽整備、など。	

(サブテーマ) 自然を生かす	(展開項目) ○自然を回復し、創り出す
-------------------	------------------------

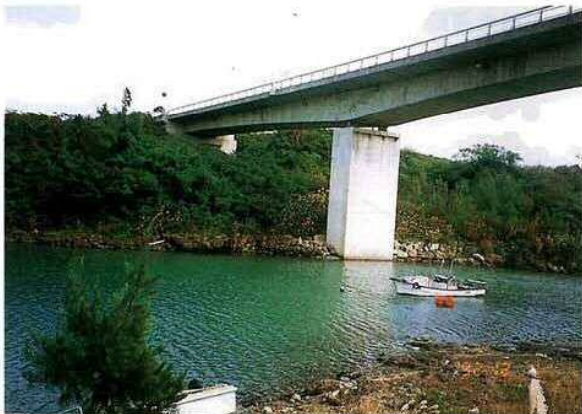
(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔自然の復元・再生〕	1. 道路周辺の環境形成林等、自然の積極的な復元・再生を検討する。 〔環境形成林の事例〕・海岸防潮林、耕地防風林、緑陰樹など。	P <sup>15</sup> デザイン2(2)
〔豊かな緑の創出〕	2. 環境施設帯や植栽帯、植栽樹は、樹種に応じてゆとりのあるものとし、できるだけ連続させる。	P <sup>16</sup> デザイン2(3)
〔資源のリサイクル〕	3. 道路の再整備では、既存の街路樹等は、評価に応じてできるだけ移植・再利用を図る。 4. 路盤材や舗装材は、建設副産物の再利用を促進する。 5. 表面雨水による植栽涵養を積極的に図る。また透水性材料を使用するなど雨水の地下浸透を促進する。	P <sup>15</sup> デザイン2(3)  P <sup>13</sup> デザイン1(4)



●地形に沿った線形により、自然改変を最小限に抑制している。  
(名護市、国道329号)



●皿形、V字側溝等の採用により、小動物の移動の障害を軽減している。  
(西表島)



●橋脚のデザイン、工法に配慮し、周辺の自然改変を最小に抑制している。  
(具志頭村)



●舗装形式を工夫し、雨水の浸透を促進し、かつ緑地を形成している。  
(那覇市、首里)



●高架橋下の空間を周辺土地利用に連続させ、ゆとりのある緑地を形成している。  
(シガポール)



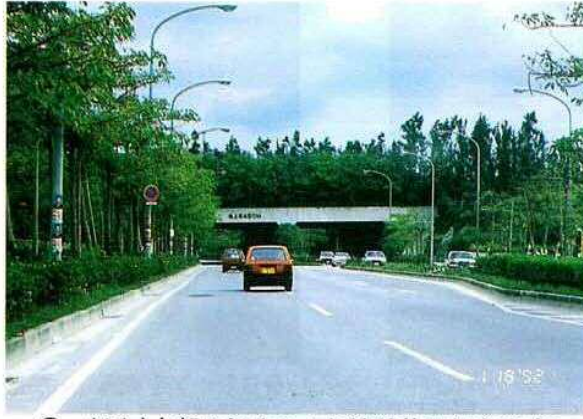
●ランプにおいて見通しと安全を確保しながら、積極的緑化を図っている。  
(シガポール)



●大規模な橋梁への積極的な緑化を図り、ゆとりと風格のある橋梁景観を形成している。  
(シガポール)



●地下トンネルの導入部の修景により、緑豊かな景観を形成している。  
(シガポール)

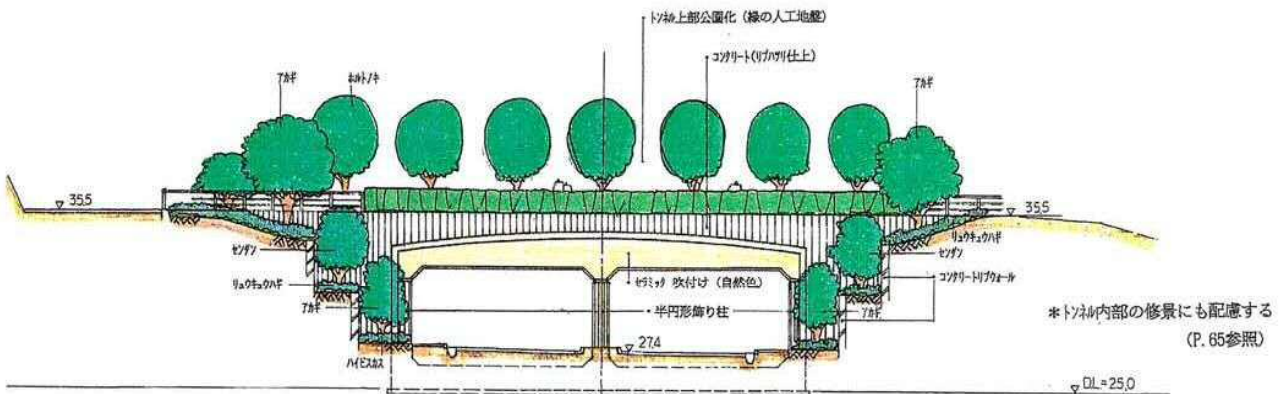


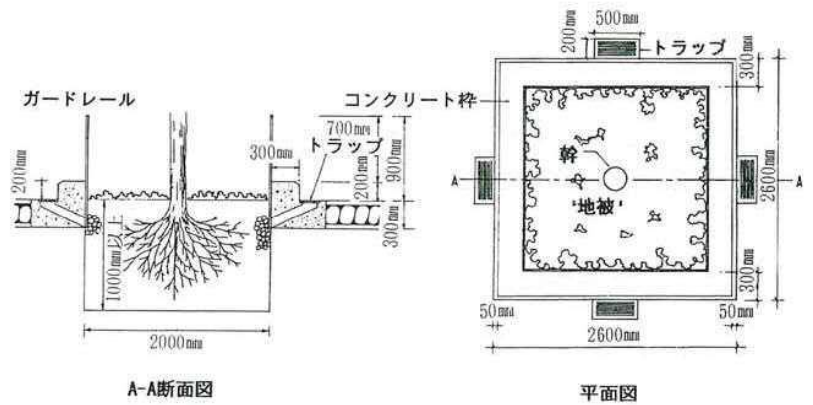
- カバート上部の緑化により連続的な緑を形成している。  
(沖縄市、県総合運動公園)

<植栽イメージ>  
 ・道路上を横断する豊かな緑の帯  
 ・要所で彩り・派手をつくるL&P



- 緑の森と集落のつながりが保たれるよう、トンネル構造を取り入れた計画モデル  
(国道 507号〔津嘉山バイパス〕修景基本計画、H. 6. 3、沖縄県)





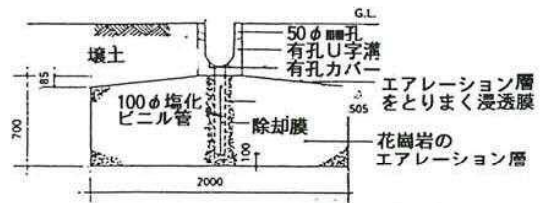
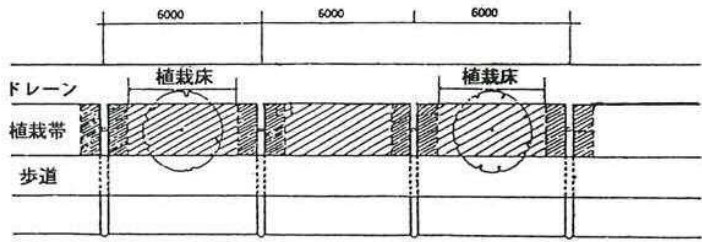
A-A断面図

平面図

<高木植樹枿の例>

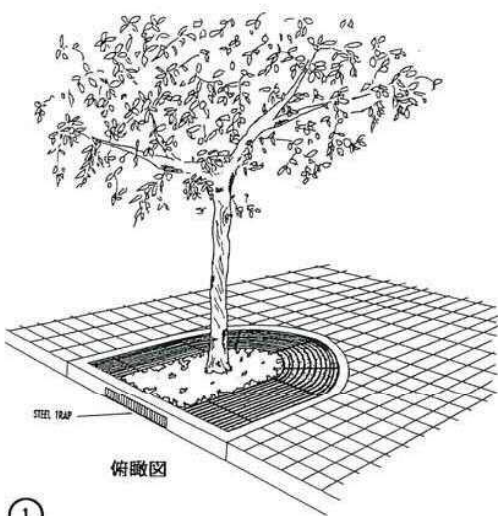


- 雨水を植栽帯に導入するために穴が穿たれた排水溝。(シンガポール)



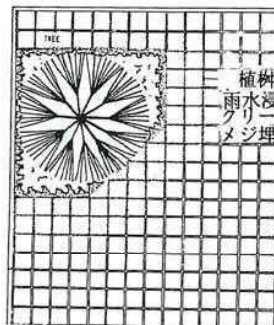
<雨水浸透と水はけの工夫例>

- シンガポールでは路面の雨水を植栽帯に導くよう排水溝の構造が工夫されている。  
(「Tree planting and Landscaping Requirements for Development Projects」 M. N. D. SINGAPORE)

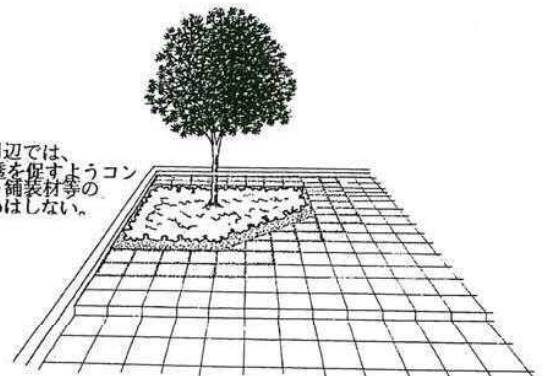


俯瞰図

①



平面図



俯瞰図

②

JOINTS BETWEEN THE CONCRETE SLABS ESPECIALLY IN AREAS NEAR THE BASE OF TREE, SHOULD NOT BE FILLED UP WITH CEMENT GROUTING

- シンガポールでは、雨水の植栽涵養への積極的な活用を図っている。  
①. 植枿へ雨水が流れる構造となっている。  
②. 植栽周辺の舗装の透水効果を高めている。  
(「A GUIDE TO THE ABRATION OF TREES」 M. N. D. SINGAPORE)

(サブテーマ) 文化を活かす	(展開項目) ○地域から学び、地域になじむ
-------------------	--------------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔地域特性の把握〕	1. 道路の立地条件から道路の性格をとらえ、それに応じた景観形成の方針をたてる。  2. 沿道の景観資源を道路景観形成要素として取り込み、活用する。  3. 道路景観形成において、積極的な景観対象とすべき「見せる」要素と、比較的消極的な「なじませる」要素とを分けて考える。前者は、全体景観の中の主役として周辺景観との対比を構成する。後者は、地の要素として周辺景観と調和する要素とする。 [対比の要素]・橋等、高架構造物、街路樹(並木)、舗装など。 [調和の要素]・擁壁、側溝、縁石、など。  4. 沿道景観が道路景観に与える影響が大きい場合には、沿道景観を含めて景観のあるべき姿を想定する。そのうえで道路景観と沿道景観との連携を図りながら、総合的に良好な景観の形成を図る。	P126 70セ1(3)
〔景観資源の活用〕		
〔周辺景観との調和と対比〕		
〔周辺との景観の連携〕		

(サブテーマ) 文化を活かす	(展開項目) ○文化を受け継ぎ、育む
-------------------	-----------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔歴史資源の保存・活用〕	1. 石畳道や石橋等、歴史的・文化的資源は交通施設としての保存活用を図る。また、歴史性の表現がふさわしい場所では、新しい道路にも歴史的・文化的なイメージを与える。 [参考となる歴史的・文化的交通施設の例] ・宿道、石畳道、浮道、馬場、一里塚、御侍毛、番所、石橋、チャマサ、など。  2. 道路によって地域の歴史や文化資源の結び付きが増し、それらの存在を印象づけるような景観整備を図る。  3. 路上施設では、場所に応じて沖縄の歴史・文化を表現した個性豊かなものを検討する。 [参考となる歴史・文化的要素の例] ・シーサー、石敢当、緋・紅型の模様、など。  4. 地場の素材や産物は、道路の舗装材、構造物の表面材、路上施設の材料等への使用を検討する。 [素材・産物例]・琉球石灰岩、コーラル、やちむん、琉球ガラス、など。	P31 テサイ5(5) P36 テサイ7(2)
〔歴史・文化イメージの表出〕		
〔素材と地場産品〕		



● 歴史的建造物の保存活用が、道路景観のランドマークとなっている。



● かつての馬場の姿を残し、歴史的な景観として保全活用している。  
(今帰仁村、仲原馬場)



● 既存樹林に配慮した路線選定により、樹林を取り込む道路景観を形成している。  
(石垣島、宮良)



● リュウキュウマツの老木を沿道景観の重要な要素として残し、景観ノードを形成している。  
(本部町、本部循環線)



● 橋梁の色彩を水と緑の補色を採用し、自然と構造物の両方が際立つ対峙景観としている。  
(西表島)



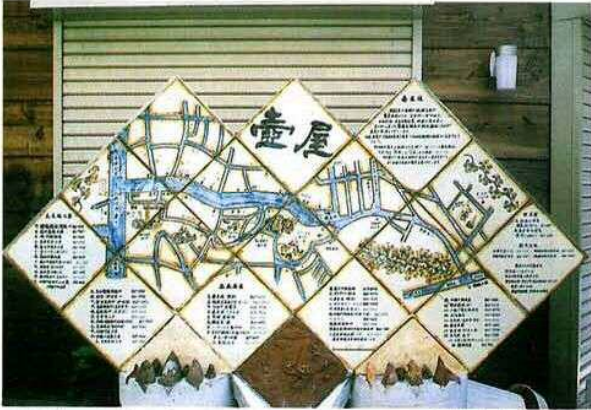
● 排水路等の目隠ししたい要素は、一帯になじむ緑化修景を図り、良好な景観を展開している。  
(ソコガポール)



● バス停の休息施設に茅葺き屋根を採用し、個性豊かな、沿道の景観要素となっている。  
(国頭村、国道58号)



● 石造橋に琉球石灰岩を採用し、伝統の三心円アーチをデザインすることで沖縄らしい景観要素となっている。



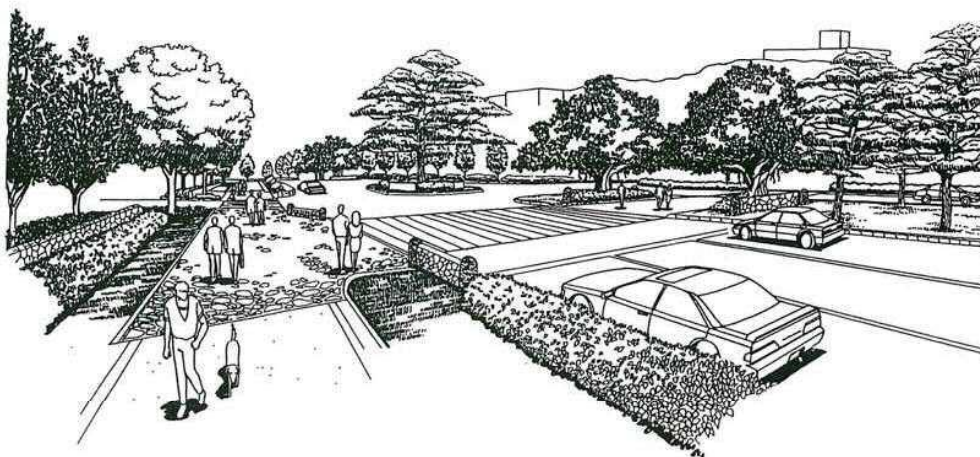
●地域の素材である焼物がストリートファニチャーの素材として活用されている。  
(那覇市、壺屋)



●緑石に琉球石灰岩を採用し、地域性を演出している。  
(名護市)

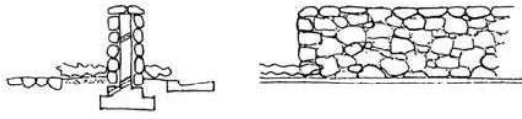


●沿道のロードパークにガス風の石積の連続景を創出し、沖縄らしさを印象づける。  
(一般国道332号景観検討業務 H. 4. 10. 沖縄総合事務局)



●新しい道にも、チマサーなどの沖縄の歴史的・文化的要素を取り入れる。  
(漫湖地区修景詳細設計 H. 4. 3. 沖縄総合事務局)

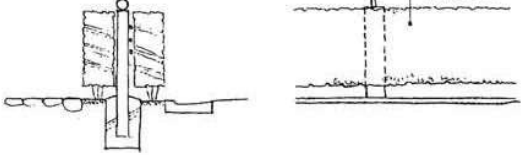
石垣+イタビカズラ



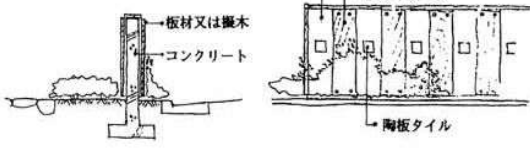
琉球瓦・シッコイ壁



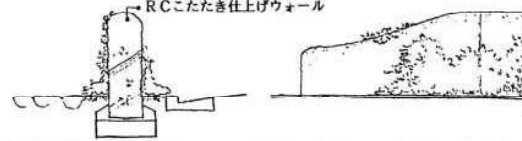
ガードワイヤー+灌木植栽



板塀



RC+イタビカズラ

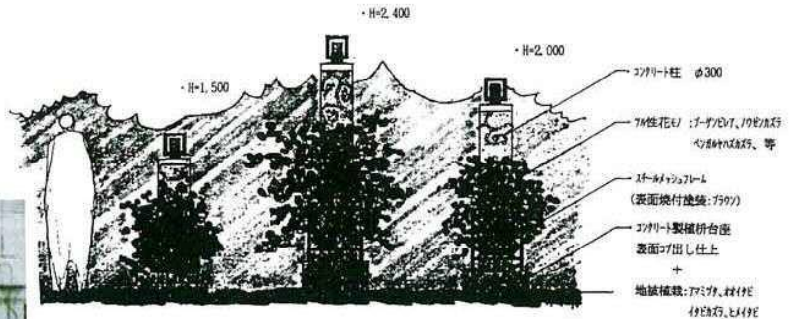


単柱+シッコイ壁



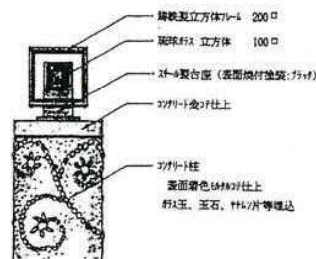
- 境界部の構造物には、地域の歴史・文化の多様な表現を与えることができる。  
(首里地区・街路景観試設計、1992.3、那覇市)

・花の列柱イメージ



- ストリートフェニチャーにシーサーのモチーフを取り入れ、沖縄らしさを演出している。  
(那覇市、国際通り)

□大・中・小列柱イメージ S=1:4.0



□頭部詳細イメージ S=1:1.5

- 地域の素材を活用し、親しみあるストリートフェニチャーを検討する。  
(国道507号〔津嘉山バイパス〕修景基本計画、H.6.3、沖縄県)



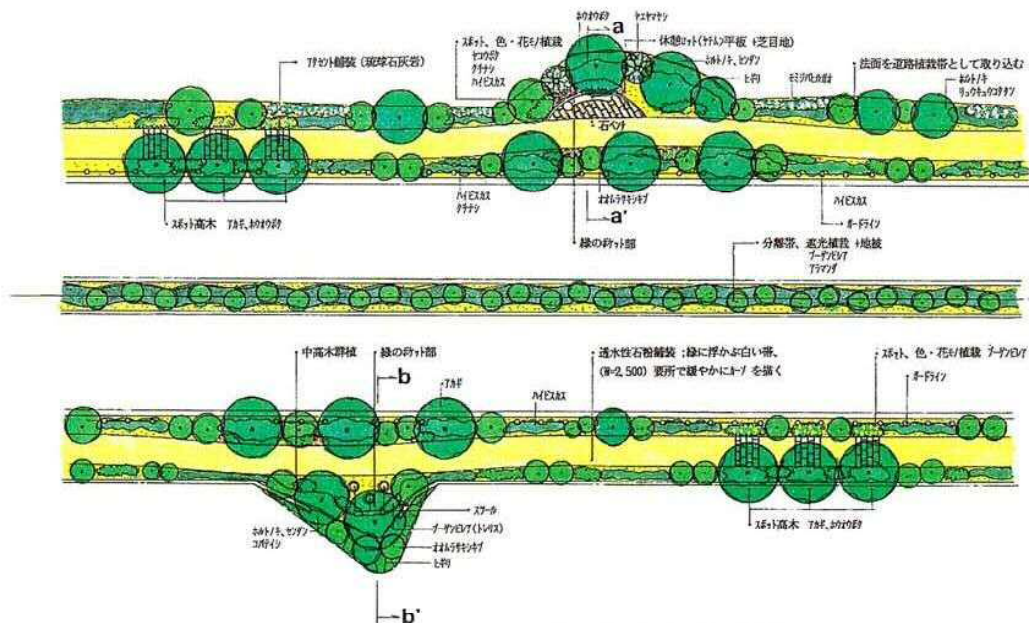
(サブテーマ)

くらしを彩る

(展開項目)

○開かれた場を創りだす

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔ゆとり空間の確保〕	1. 道路敷にはできるだけゆとりをもたせる。また、歩道や環境施設帯等の幅員は、できるだけゆとりを持って確保する。	P <sup>38</sup> デザイン8(2)
〔周辺とのつながり〕	2. 道路敷設定の際に、道路沿いの残地やへた地を積極的に道路敷にとり込み、環境形成及び景観形成の対象要素として整備を図る。	P <sup>37</sup> デザイン8(1) P <sup>38</sup> デザイン8(2)
〔眺望の場所〕	3. 道路と沿道の空間要素との境界部は柔らかなメゾで処理する。	
	4. 道路に隣接して公園や河川、公開空地等のオープンスペースが立地する場合、その一部が道路敷と一体的となるよう配慮する。	
〔眺望の場所〕	5. 眺望の良好な区間ではその眺望が享受できるよう、道路視点でオープンな景観を確保し、休憩スポット等の整備を行う。	P <sup>35</sup> デザイン7(1)
〔すっきりとした路上空間〕	6. 自販機等、無秩序な道路の占用行為を排除するよう努める。ただし、地域の伝統や慣習に則ったもので、景観の良好な要素となっている場合は、その存続に配慮する。	
	7. 乱雑な景観を呈している路上施設は、整理と統廃合をすすめる。 〔整理・統廃合の対象〕・柵類、サイン、標識類、電柱、など。	
	8. 共同溝やキャブシステム の導入により、道路内の収容機能を強化し、路上空間をすっきりとさせる。	



- 道路沿の残地、へた地を道路景観の修景要素及び休憩スポットとして活用する。

(国道 507号〔津嘉山/川〕 修景基本計画、H.6.3、 沖縄県)